教育部会用自己点検・評価シート（様式１）

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：文学と芸術
部会長名：鈴木幹雄
作成者名：鈴木幹雄

概要（2000 字）

１．開講科目

平成２６年度の『文学と芸術』教育部会は、前期に「日本の文学」４コマ、「世界の文学」１コマ、「言語と文化」１コマ、「伝統芸術」３コマ、「芸術と文化」３コマ、合計１２コマを担当している。また、同年度後期には、「日本の文学」３コマ、「世界の文学」１コマ、「言語と文化」３コマ、「伝統芸術」３コマ、「芸術と文化」２コマ、合計１２コマを担当している。関係研究科は、国際文化学研究科６名（前期・後期各１コマ担当）、人文学研究科８名（半期各１コマ担当）、人間発達環境学研究科４名（半期各１コマ担当）の３研究科で、総計 18 名が前期・後期合計 24 コマを担当している。

２．授業内容

各教員が各自の問題意識と専門分野を踏まえ、学生たちの幅広い関心に応えつつ、現代人にふさわしい文学や芸術の教養・知識を深めることを目的とした多様なメニューを提供しようと試みている。以下、１４名の教員から授業自己評価回答のあったもの *の中から若干の代表的事例、約２件を取り上げ、そのメニューを紹介する。(*:回収率：14/18、78%、メニューは一部短縮)

（１）日本の文学：

①「近代文学と天皇・戦争」をテーマに、近代日本における国文学者・作家・作品のありようを検討することを通じて、２０世紀の日本が経験した歴史と作家・作品との密接な関係について講義した。

②万葉集の歌・人物について講義した。万葉集について一通りの知識を得られるよう、講義内容を構成した。高等学校までの教材で扱われている事柄を重点的に取り上げたほか、方言や字余りなど、周辺的な事柄も扱うよう配慮した。

（２）世界の文学：

①以下の各テーマに沿って、まず概説を行なった後、作品の一部を原文と日本語訳で読み、中国古典文学の特質について考える。１．中国の古典文学、２．詩経と楚辞、３．口承の文学、４．民間の風習と文学、６．古典詩のきまり、７．詩の技法、８．小説の発生と展開、９．文言の文学と白話の文学。

（３）言語と文化：

①受講者に言語のバラエティの学問的意義を学ばせることによって、言語と人間についての理解を深めることを目的とする。受講者は講義を通して、自身の言語表現を内省する力、異文化接触における他言語表現を理解する力を身につけることができる。

②人間言語の普遍性について文法の観点から考える。特に、言語学の生成文法の基本的な考え方を導入しながら、日本語や英語の文法における共通点・相違点を観察し、それが人間言語の普遍性とどのように関連するかを考える。

（４）伝統芸術：

①日本の伝統文化を音楽、芸能の観点から紹介し、現代社会、国際化社会における日本文化の意義について考えさせる。

②世界映画史を解説するとともに、各時代の特徴的な映画のスタイルを具体的な映像を交えて解説する。

（5）芸術と文化：
①クラシックの中の声楽とくに歌曲の歴史をたどりながら社会とどのように関わりながら変化してきたのかを、音楽鑑賞を通して、理解だけではなく、自分の体で感じることが目的の一つである。
②19 世紀の芸術から 20 世紀の芸術的視点＜コンポイジッション＞へ至る地殻変動を、造形芸術上のダイナミズムとして断章的に知ると同時に理解を深め、ヨーロッパにおける近代芸術成立事情の基本線を理解出来るようになることを目指した。

３．教育方法の工夫
（1）以上のようなアンケート回答を得た。
①毎回テキストと関連資料・レジュメを配布し、学部１年生にも解りやすく解説する努力を行った。
②授業内容に関連した視聴覚資料を積極的に活用し、理解を深める努力を行った。
③授業に関連して情報機器を積極的に活用し、理解を深める努力を行った。
④授業中に書かせるレポート、試験などによって、知識と理解を身につけられるよう努力を行った。
⑤適宜アンケートや学生からのコメントペーパーを活用するなどして、学生の理解度を把握し、同時に学生の理解を深めるべく授業展開を修正実現する努力を行った。

４．展望・課題
①教員アンケートからは、授業においては適宜学生の知識と理解を深めるべく、改善・努力をしている実態が浮かび上がってきている。学生アンケートからも、基本的に、それが裏付けられている。
②ただ他方では、従来文学や芸術は、若者の知的・文化的好奇心の対象であり得てきたが、文学的・芸術的領域においてその知的好奇心に陰りが見えるようになってきた。本学本教育部会の歴代部会長による年間自己評価においても、近年この点に対する懸念が指摘されている。
③本年度、本教育部会では外部評価委員会が開かれたが、同委員会でも、当該共通教育教科に対する受講学生のモティベーション刺激策が論議され、「グローカリゼーションの現代的要請の活用」、「導入授業の水準を下げることによる、受講学生の文学・芸術的モティベーションの活性化」等、外部評価委員による試行的提言がなされた。

<u>項目・観点ごとの記述</u>

<u>基準５　教育内容及び方法</u>
５－１【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ，それに基づいて教育課程が体系的に編成されており，その内容，水準が授与される学位名において適切であること。】

５－１－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に配慮しているか。

観点に係る状況（150 字以上）
教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に配慮している。この部会では、大きくわけて文学、言語、芸術に関する教養原論を、三つの文科系の部局の教員が講義しているが、いわゆる、「古典」だけでなく、現代の新しい表現、社会と関連した今日的な諸問題を積極的に取り上

げて、学生の関心、興味に対応する内容を提供している。
根拠資料 シラバス、授業中に提示したスライド、配布したプリント、レジュメ。オーディオ・映像資料、学生のコメントペーパー

５－２【教育課程を展開するにふさわしい授業形態，学習指導法等が整備されていること。】

５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

観点に係る状況（150 字以上） この部会では教養原論という講義形式の授業形態を展開しているが、特に芸術系の授業では、ことばによる説明、理論の解説に、ビジュアル資料、音響・映像資料の実例を組み合わせている。このことは実物を提示することによって対象に対する理解を深める効果があると同時に、単調な講義の流れに変化をつける、という効果も持っている。
根拠資料 シラバス、授業中に提示したスライド、配布したプリント、レジュメ、オーディオ、映像資料。

５－２－②：　単位の実質化への配慮がなされているか。

観点に係る状況（100 字以上） 学期末の試験によって講義内容の理解度を測ると同時に、レポートの提出によって、講義内容に関連した問題意識がどのくらい習得されているかを測っている。また、授業によっては毎回コメントペーパーを提出させたり、小テストを実施して、理解度とともに、学生の興味の動向を知る手助けとしている。
根拠資料 シラバス（課題提示）、レポート課題、小テスト等

５－２－③：　適切なシラバスが作成され，活用されているか。

観点に係る状況（50 字以上） シラバスは、授業の目標の明示、内容の概要、スケジュールの提示など、全体の内容と構成がわかるよう工夫している。
根拠資料 シラバス、授業中に提示したスライド、配布したプリント、レジュメ、オーディオ、映像資料

５－２－④：　基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

観点に係る状況（100 字以上） 　本学の特性からして、「基礎学力不足の学生」はあまり見られない。ただ、文学、芸術へのモティベーションの低下は大きな問題である。このため、学生の関心を喚起するために、現代生活において身の回りにあるもの、日常的な話題等を適宜取り入れ、それを抽象的な理論、普遍的なテーマへと導くように工夫している。
根拠資料 授業担当教員自己評価書、学生授業評価、シラバス、授業中に提示したスライド、オーディオ、映像資料、試験、レポートなど

５－３【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ，それに照らして，成績評価や単位認定，卒業認定が適切に実施され，有効なものになっていること。】

５－３－②：　成績評価基準が策定され，学生に周知されており，その基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。

観点に係る状況（100 字以上） 成績評価については、シラバスに明記するとともに、授業中に複数回説明し、注意を喚起している。出席については、出席票に名前を書かせるだけでなく、コメントを書かせ、授業をきちんと聞いているか、理解しているかなどのチェックを行っている。
根拠資料 シラバスによる明示、口頭での説明、プリント、レジュメによる学習到達目標の提示、レポート、筆記試験

５－３－③：　成績評価等の客観性，厳格性を担保するための措置が講じられているか。

観点に係る状況（100 字以上） 成績評価等の客観性，厳格性を確保するために、最終成績評価については、出席状況、レポートと試験による理解度のチェックなどを総合的に勘案して成績判断を行うよう努めている。筆記試験は全体の平均点が適正な範囲に来るように設問を工夫している。
根拠資料 試験結果、試験の平均点、提出されたレポート、出席票、コメントペーパー

<u>基準６　学習成果</u>

６－１【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして，学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について，学習成果が上がっていること。】

６－１－②：　学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して，学習成果が上がっているか。

観点に係る状況（100 字以上） 学生の意見は学生自身の授業内容への興味、授業への取り組み態度によって大きく異なる。一般的に、興味を持って熱心に聴講する学生からの授業内容に対する反応は良好であるが、一方で教室の設備の不備（たとえばプロジェクターが暗くてよく見えないなど）や、スライドの提示の時間が短いなど、授業の実質的な進行に関する不満は毎年一定程度ある。こうした実践上の問題については、学生の意見を参考に改善するように努めている。
根拠資料 学生授業評価、授業担当教員自己評価書、コメントペーパー等

<u>基準７　施設・設備及び学生支援</u>

７－１【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され，有効に活用されていること。】

７－１－④：　自主的学習環境が十分に整備され，効果的に利用されているか。

観点に係る状況（50 字以上） 施設上の課題はあるが、改善されつつある。課題点としては、無線 LAN の転送速度の遅さ（授業中に何度もフリーズする）。照明スイッチが映像機器キャビネットのそばに無い（教室の反対側にある）など）。図書館の図書（視聴覚資料も含め）などのコンテンツは年々追加され、よりよい環境となっている。学内のネット環境も年々向上している。
根拠資料 鶴甲第一キャンパスにおける図書館の整備、各教室の情報機器の整備等

７－２【学生への履修指導が適切に行われていること。また，学習や課外活動等に関する相談・助言，支援が適切に行われていること。】

７－２－①：　授業科目のガイダンスが適切に実施されているか。

観点に係る状況（100 字以上） 適切に実施されている。授業開始時に、シラバス、口頭で授業の目標、内容、成績評価、受講上の注意などについて説明している。また、授業中には各種の参考書、参考資料など、学習に役立つ情報を提供し、学生がみずから考えるための材料を提供している。
根拠資料 授業導入時のガイダンス、シラバス、授業時に適宜なされる授業のオリエンテーリング、要約的レジュメ、オフィス・アワーの明示・活用

７－２－②：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており，学習相談，助言，支援が適切に行われているか。
また，特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり，必要に応じて学習支援が行われているか。

観点に係る状況（100 字以上） 授業中、授業後に質問を受けているほか、オフィス・アワーを利用した、質問、相談も受け付けている。また、一部の教員は、日本語を母語としない留学生のために、スライドに英語字幕をつけたり、筆記試験、シラバスの英語版を作成している。
根拠資料 オフィス・アワーの明示・活用、留学生用の英文ガイド、英語版スライド、英語版試験問題等の活用